



縄文時代の地形俯瞰 出典：新之介氏2013年7'叻'

<参加メンバー>

参加メンバー：6人（男性3人、女性3人） 天候：晴れ

<コースタイム>

JR天王寺駅10：30～黒龍大神～グレートな石段～天龍大神～崖と階段～11：40聖天山のクヌギ(昼食)12：30～聖天山～阿倍野七坂～阿倍野神社～阿倍清明神社～東天下茶屋駅～(阪堺軌道上町線)～15：40天王寺駅  
歩行時間(休憩含む)：約5H 歩行距離：約8km

<山行の概要>

上町台地の北端の大坂城は標高32m、阿倍野で15mと南へ緩やかに傾斜している。台地の西側は縄文時代の海食により崖が形成され、今回はその崖の上のルートを下りしていきます。かつては崖の上から海がすぐ目の前に迫っていた風景を思い浮かべ、崖の上と下を行き来しながら地形の高低差を体感し史跡を巡った。

JR天王寺駅から西へ大阪公立大学附属病院を過ぎてすぐ左折し坂道を下りていくと左手に赤い鳥居の黒龍大神の祠がある。明治末期まで崖下のこの辺りに大池があり、池の周りに大蛇を守護神として黒龍・白龍・天龍の三つの祠を建て信仰したという。道はまた崖の上へ戻り、今度は通称“グレートな石段”を下る。ここでも崖の高さを実感できる。崖下の通りには銭湯があり家並みがいかにも昭和の雰囲気。天龍大神でまた崖の上へ。少し行くと飛田新地への下りの階段あり。このあたりは崖の上は阿倍野区、下は西成区、崖が区境になっているようだ。擁壁上の住宅の崩壊映像が生々しいTVニュースを数年前に見た記憶があるが、まさにその前を通った。いまはコンクリートで完璧に補強した擁壁に変わっていた。しかしそこを過ぎると相変わらず古い石の擁壁が続き、この擁壁の下に有名な天下茶屋東の湧き水があり今回見る予定であったがフェンスで囲ってあり見られずに残念。続いて聖天山へ。かつては古墳だったが開発から住民が守りきった1本のクヌギが残る公園になっている。ここで満開の桜を眺めながらゆっくり昼食。そのあと阿倍野七坂を巡る。前回の天王寺七坂はすべて東から西へ(崖上から海方向)へ向かっているが阿倍野七坂は浸食された入りくんだ谷地形にできているので坂の方向はばらばら。瀟洒な住宅街の中で探索が面白い坂だった。天王寺七坂の方が歴史があり趣がある気がした。最後に南北朝時代の古戦場跡に建つ阿倍野神社や平安時代の陰陽師で有名な安倍晴明神社を参拝し、東天下茶屋駅から路面電車で天王寺に戻った。(Gi)



今日のコースの確認



病院前を過ぎて左折



崖上から下りていくと



左手に黒龍大神の祠がある



龍が彫られた石、祭神か？



通称”ゲートな石段“



”ゲートな石段“を見上げる  
上は阿倍野区、下は西成区



昼間から客の絶えない銭湯



天龍大神



飛田新地への階段



ルート上には崖の上と下を行き来するこ  
んな階段が多い。高低差10m以上か



3年前、擁壁と住宅が崩落事故を起  
こした現地の写真(写真は新之介氏着  
「高低差」地形散歩より借用)



今はコンクリートで完璧に補強



同左、崖の上からの状態



この先も古い石の擁壁が続く。  
擁壁の下部に有名な湧き水があ  
るが柵で囲われて入れない



聖天山公園へ



聖天山公園の久木。ここは古墳跡。  
地域住民が業者の伐採から守った。



満開の木の下で



桜を見ながら屋食



大聖歓喜天へ



天下茶屋聖天尊



建物も崖の上に建っている

阿倍野七坂



相親坂



相生坂



みどり坂



みなみ坂



やしろ坂



さくら坂



みや坂



道がややこしい、ルート図を確認中



阿倍野神社へ



阿倍野神社 鳥居と拝殿



拝殿前で跳ぶ人



熊野街道に沿って



安倍王子社や  
王子社は当時熊野まで99ヶ所あった



安倍清明神社がある



阪堺軌道上町線に乗って

今回のルート図 ➡



天王寺へ帰着



七坂付近で出会った姫リンゴの花



終り